

# AMAKURU Rwanda

-Ukwezi Kwa Cumi na Rimwe- #7



青年海外協力隊 2017 年度 4 次隊  
ルワンダ派遣 (2018/3~)  
コミュニティ開発 (水の防衛隊)  
野田 恵莉

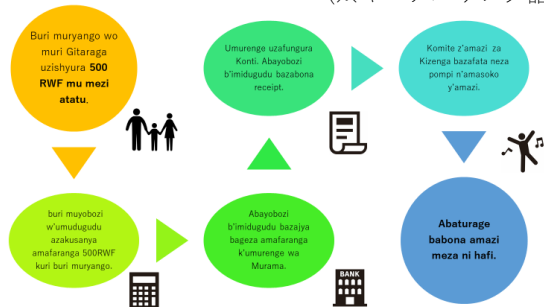


Mwiriwe ! (こんにちは!) 2018 年 3 月末より東アフリカの赤道直下に位置するルワンダ共和国に派遣されている野田恵莉(のだえり)です。

東部県ンゴマ郡ムラマセクターに赴任して 7 か月が経ちました。2 か月に 1 度の頻度で、日本では経験したことのない虫刺されと戦っています。

さて今月も、私の活動、任地の暮らしについて紹介します。

(※キニアルワンダ語)



📷 : ハンドアウト「水料金徴収のしくみ (モデル)」

## ----- 7 人の村長を訪ねる自転車旅 -----

セル (町) 職員から村長に声をかけてもらい、「水料金徴収の話し合いの場」を設けようと考えていましたが、待っても、待っても動きなし。なぜだろう? と考えた末、汗をかいて、自分の足を使って動けていなかったことに気づきました。

思い立った次の日から、セル内にある 7 つの村の村長を一人一人訪ねることに。つたないキニアルワンダ語で自己紹介をしたうえで、「会って話したいんだ!」と電話でお願いをし、アポイントメントをとりました。

しかし、一人で村に飛び込み、村長に理解を求めるとなると、言葉の壁が大きい。そこで、キニアルワンダ語でハンドアウトを作り、いざフィールドへ!

道行く人に、「ここは何という村? 村長の家はどこ?」と尋ねながら、自転車で自宅から 1 時間。(ルワンダの丘の上での自転車は、かなりハード) 子どもやおじさん…たくさんの案内人とともに、バナナ畑をかき分け、村長宅に到着しました。



📷 : どの村でも、「一緒に行こう」と村人が親切に案内してくれました。

## Gufata neza amazi!

(※キニアルワンダ語)

- Abagize Komite z'amazi ba Kizenga na Rukizi bacunga pompi n'isoko z'amazi.
  - Gukanika pompi & isoko z'amazi
  - Gukora isuku
- Iyo pompi/isoko z'amazi yangiritse...
  - Kwishyura amafaranga y'umutekinicya n' abakozi
  - Kugura ibyuma
  - Gukora pompi/isoko z'amazi zangiritse



IBIBAZO muri Kizenga  
① Pompi 1 yanziritse.  
② Isoko z'amazi 1 yanziritse.

📷 : ハンドアウト「なぜ水料金徴収が必要なのか」

さっそく村長へ挨拶し、ハンドアウトをもとに説明。1 つ伝えたら、難解な現地語が 10、20 返ってきます。なんとなく相手が伝えようとすることは理解しつつも、わからない単語はメモをし、持ち帰る。そんな訪問を 7 回繰り返しました。

結果、村長からは「村内でも村人はそれぞれ異なる場所で水を得ており、全員に水料金を求め、理解を得ることは難しいかもしれない。けれど、

集会で村人に投げかけてみるよ！」と返事をもらうことができました。直接会ったからこそ得られた協力と、生の情報は大きかったなあ実感。

今回は、住民集会にでかけ、村長と水料金徴収の呼びかけを行ってきます！

---- キガリ ジェノサイドメモリアルを見学 ----

ルワンダに赴任して以来、必ず訪れなければと思っていた場所、「キガリ ジェノサイドメモリアル」に行ってきました。

初回号でも少し触れましたが、ここルワンダでは、1994年に虐殺が起きました。この出来事を思い起こす場所、学びの場所としてこの記念館は存在します。



📷：記念館の外観。

記念館はキガリの中心地、ムムジからは少し離れた場所に位置し、お墓やガーデンなどもある静かな場所です。

入場すると、まずムービーが上映されます。当事者が語る当時の光景、悲しみには胸が締め付けられました。

展示場では、ルワンダの歴史から始まり、この国が植民地化によってどのように変わっていったのか、当時何が起こったのか、その後どう復興したのかが語られていました。

見学後、キガリのまちを見渡した時、とても不思議で、複雑な気持ちになりました。ルワンダ人はどんな気持ちで暮らしているんだろう、と。

最後に、この言葉が私の足を止めました。

**“We look at what people need, not at who they are.” \***

わたしたちは、あなたが誰なのかではなく、何を必要としているかを見ているんだ。

**“Peace building at umuganda community work days, we help vulnerable families.” \***

毎月最終土曜日に行われる「ウムガンダ」という住民協働の奉仕作業の日は、平和構築のためにあり、助けが必要な家庭を住民で支えているのだとわかりました。

なんとなく地域に溶け込みたくて毎月出ていたウムガンダ。住民と一緒に作業をする意味と大切さを一層感じるようになりました。



📷：ある日のウムガンダ。大雨で崩れてしまった母子家庭の家を造り直している様子。



📷：土壁用の土に水を混ぜ、バケツリレーをしている様子。

では、来月もお楽しみに。Murabeho~!(またね!)